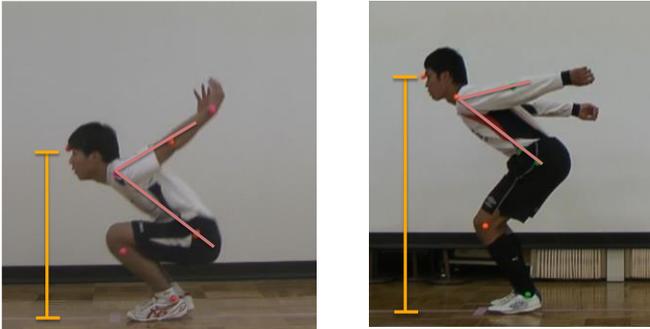


<p>芸術・スポーツ</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ サッカーに関する研究 □ 子どもの足裏に関する研究</p>
<p>keyword</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ サッカー ■ コーチング ■ 動作分析 ■ 足裏 ■ 裸足 ■ 浮き趾 	<p>■サッカーに関する研究</p> <p>コーチングに役立つようなサッカーに関する研究は多くありません。研究と現場がまだまだ乖離しているように思います。私はサッカーの指導現場(コーチング)に役立つ研究を進めています。現在は主に以下の2つのことについて研究しています。</p>
	<p>(1) ジャンプの動作分析</p> <p>長期間トレーニングを積んでいる大学生サッカー選手とバレーボール選手の垂直跳びとヘディングジャンプを比較し、サッカー選手のジャンプ力およびジャンプ動作が非常に劣っていることを明らかにしました。サッカー選手はジャンプ力向上を目的としたトレーニングを多く行わないため、長期間サッカーのトレーニングをしていてもジャンプ力が向上していないのです。サッカーのジャンプヘディングも得点に結びつく重要なプレーです。幼少期からジャンプ力向上を目指したトレーニングを導入すべきであり、指導者もヘディングジャンプ指導に対する意識を高めるべきでしょう。今後はジャンプ力を向上させる有効なトレーニングを検証していく予定です。</p>
<p>松田 繁樹 Shigeki Matsuda</p>	
<p>教育学部 准教授</p>	<p>図 垂直跳びのジャンプ動作の違い(左:バレーボール選手, 右:サッカー選手)</p> <p>※バレーボール選手は腕の振り、身体の沈み込みを利用し、ジャンプしている。サッカー選手はそれができていない。ジャンプ高、ジャンプ滞空時間もバレーボール選手がサッカー選手を大きく上回っていた。ヘディングジャンプにおいても、垂直跳びと同様な差が認められた。</p>
<p>【プロフィール】</p> <p>●専門分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ科学(測定評価, 発育発達, 運動生理, コーチング) <p>●略歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000年 金沢大学 教育学部 卒業 ・2003年 金沢大学大学院 教育学研究科・修士課程 修了 ・2010年 金沢大学大学院 自然科学研究科 博士課程 修了 ・2007年10月~2013年3月 岐阜聖徳学園大学 短期大学部 専任講師 ・2013年4月~2014年3月 同 准教授 ・2014年4月~ 滋賀大学 教育学部 准教授 	<p>(2) サッカー指導者に関する調査研究</p> <p>サッカー指導者が自己の指導力をチェックできる評価表を作成しています。現在は、日本サッカー協会の指導書や先行研究を参考に抽出した質問項目を統計解析により選別、絞り込んでいる段階です。この評価表は、選手と良好な関係を築けない指導者が自身の短所などを把握する時に特に有効と思われる。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <p>●所属学会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本体育学会 ・日本体力医学会 ・日本体育測定評価学会(評議員) ・日本教育医学会(理事) ・日本発育発達学会 ・日本フットボール学会 ・日本コーチング学会 ・日本運動生理学会 ・日本生理人類学会 	<p>■子どもの足裏に関する研究</p> <p>幼児の中に、立位時に床面に接地しない足趾(浮き趾)を有する者が多いことを明らかにしてきました。また、浮き趾と様々な要因との関係を検討し、踵荷重が浮き趾と関連していることも証明しました。踵荷重であることは姿勢にも影響するため、身体にとって浮き趾は良いこととは言えません。</p> <p>現在は、これまでに得られた結果を基に、裸足保育の効果について検証しています。裸足保育を導入している幼稚園・保育園は昔より減っていますが、現在も取り入れている幼稚園・保育所はあります。しかし、裸足による効果は詳細には検討されていません。裸足保育をすることで、足裏の形状(浮き趾や土踏まずなど)、バランス能力、重心位置などがどのように変化するのかを検証しています。</p>
	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>・「裸足感覚シューズの開発」あるいは「サッカー用ボール配給マシン」に関する共同開発・共同研究を希望します。</p>